

松浦川流域ネットワーク

意見交換 ＜防災について＞

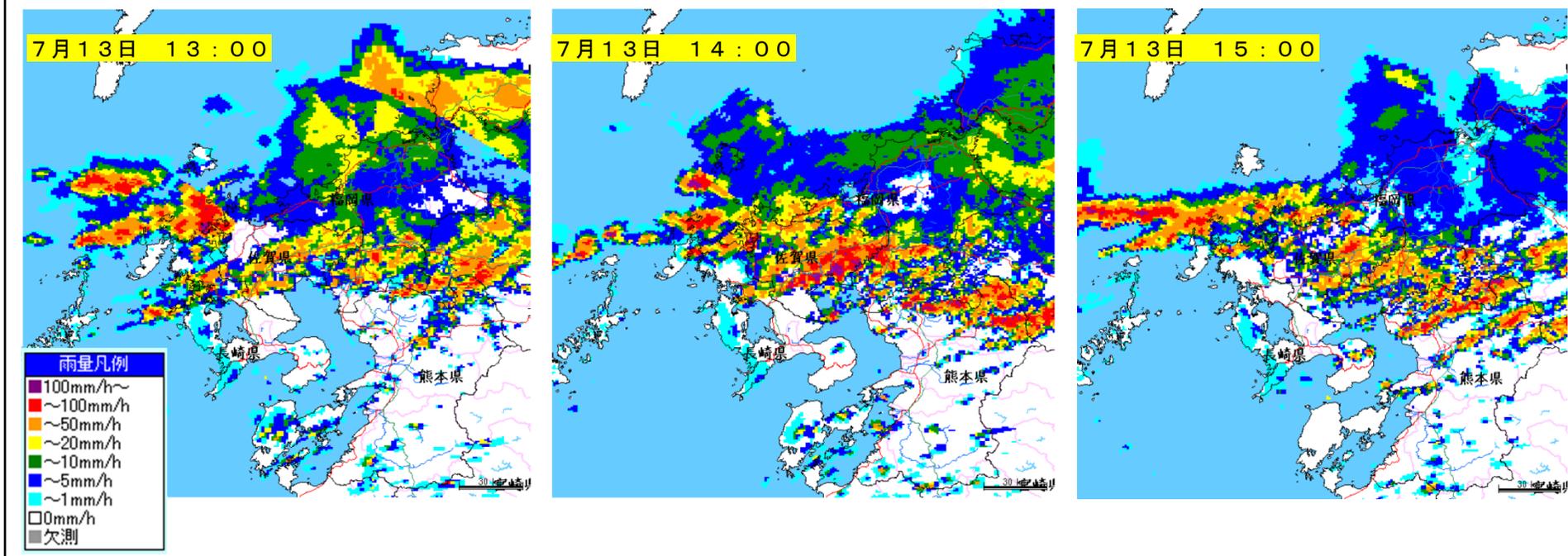


S28. 6出水 巖木川上流 巖木橋

降雨の概要（7月13日）

7月13日（金）の昼から夕方にかけて、九州北部の佐賀県から福岡県にかけて強い雨域がかかり、短時間に記録的な雨量となりました。

雨量レーダー



◆六角川水系牛津川（うしづがわ）

小城（おぎ）雨量観測所（佐賀県小城市小城町畑）

1時間雨量：66mm（7月13日 13:00～14:00）

3時間雨量：168mm（7月13日 12:00～15:00） **観測史上最多**

西多久（にしたく）雨量観測所（佐賀県多久市西多久町）

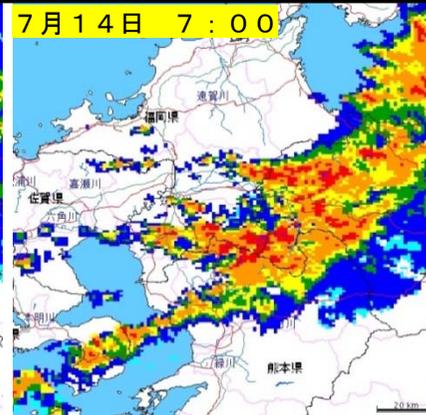
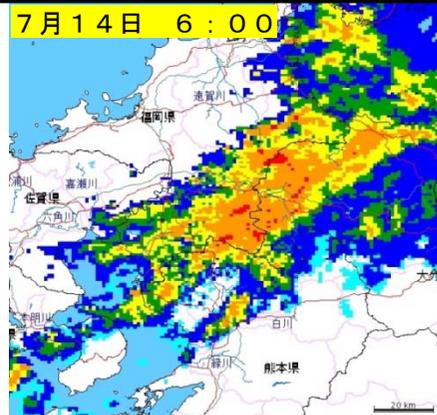
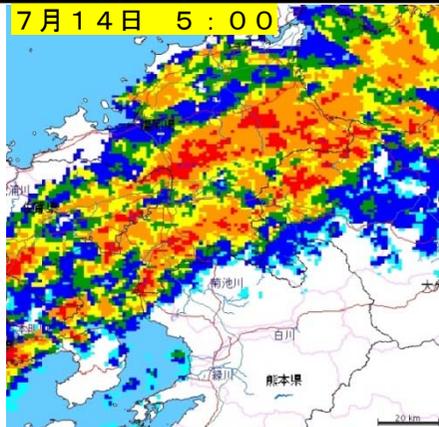
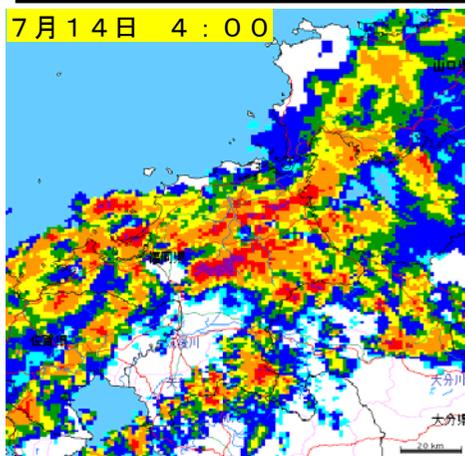
1時間雨量：63mm（7月13日 13:00～14:00）

3時間雨量：153mm（7月13日 12:00～15:00）

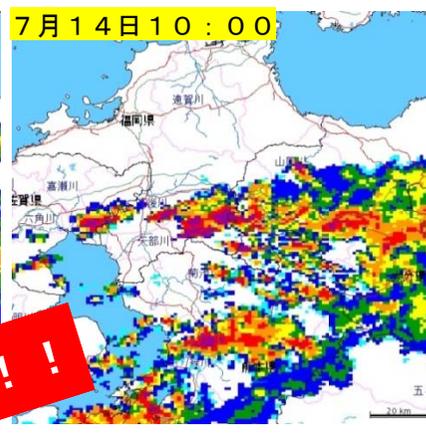
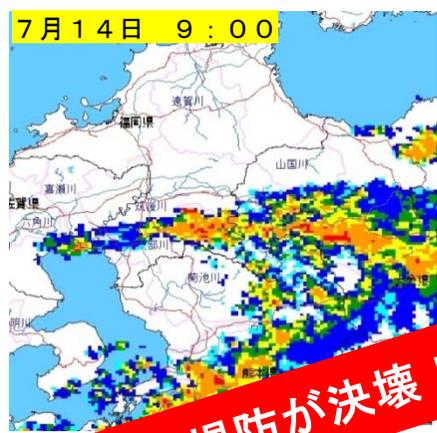
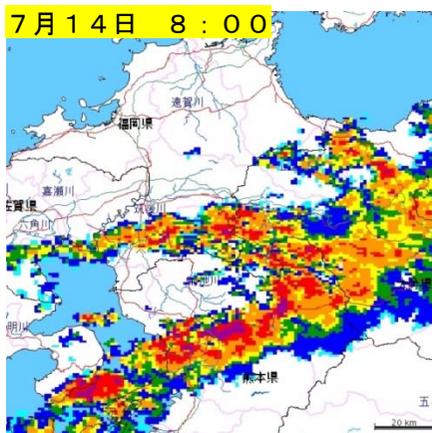
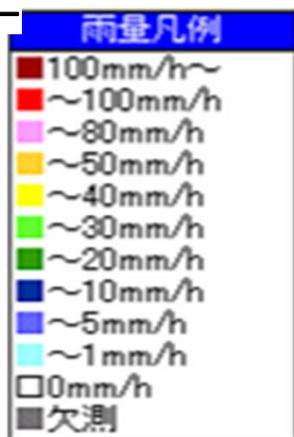
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

降雨の概要（7月14日）

7月14日(土)の未明から昼頃にかけて、北部九州に強い雨域がかかり、**短時間に記録的な雨量**となりました。



雨量レーダー



矢部川において堤防が決壊！！

◆ 矢部川水系矢部川

黒木雨量観測所 (福岡県八女市黒木町)

1時間雨量：94mm (7月14日 9:00~10:00)
6時間雨量：303mm (7月14日 5:00~11:00)

観測史上最多
観測史上最多

3時間雨量：183mm (7月14日 8:00~11:00)
9時間雨量：365mm (7月14日 1:00~10:00)

観測史上最多
観測史上最多

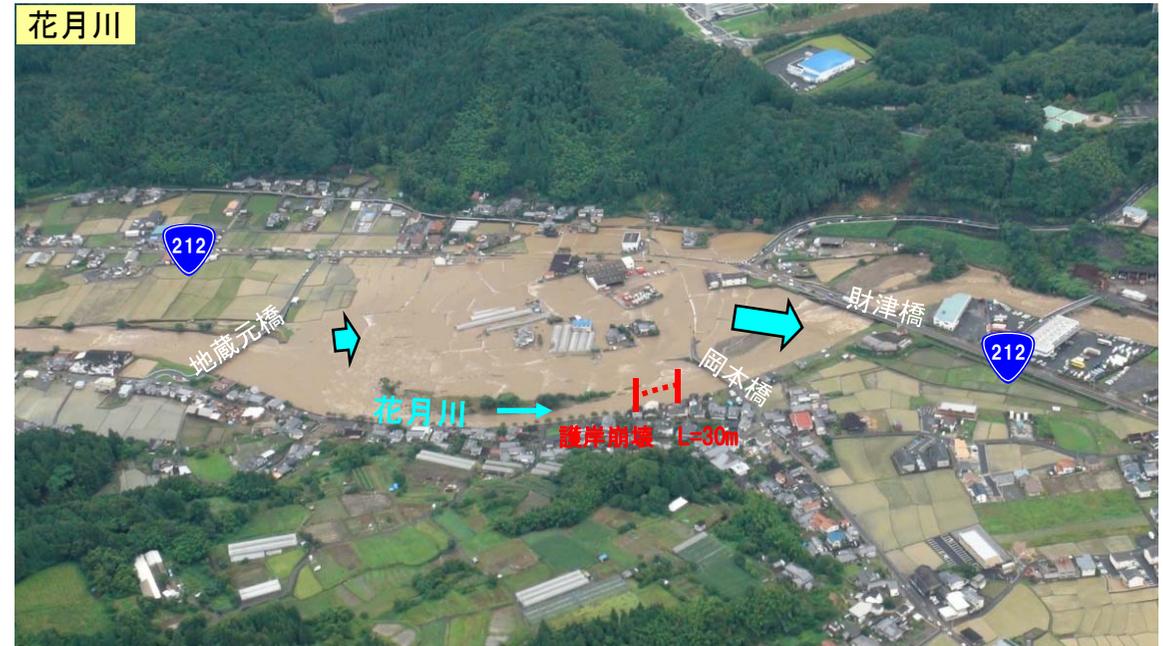
7月3日 筑後川水系花月川・有田川の出水概要

- ・筑後川水系花月川の花月水位観測所(大分県日田市)で**観測史上最高水位**を記録。
- ・花月川で**2箇所**の堤防が**決壊**したほか、花月川(国管理)・有田川(県管理)の**至る所で越水**し、日田市街部などで浸水被害が発生した。

【位置図】

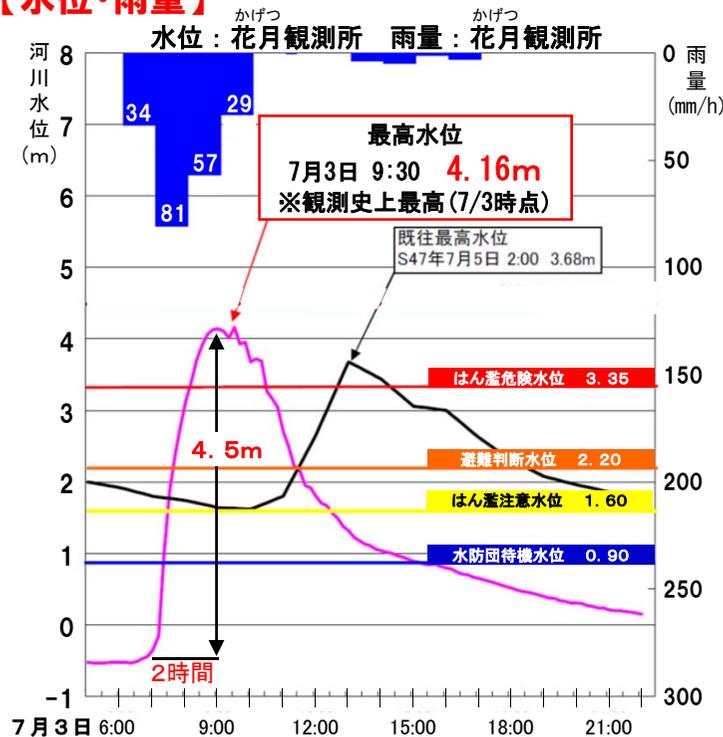


【出水状況等】



日田市三和地区(花月川 7K700付近) 浸水状況

【水位・雨量】



【浸水戸数】

花月川・有田川沿川の浸水戸数

平成24年10月2日時点

河川名	市町村名	浸水戸数(戸)					備考
		全壊	半壊	床上	床下	計	
花月川	日田市	1		414	306	721	国管理
有田川	日田市		1	61	52	114	県管理
全体		1	1	475	358	835	

【出水状況等】



日田市西有田(花月川左岸 5K800付近) 堤防決壊状況



日田市西有田(花月川 右岸6K200付近) 堤防決壊状況



日田市羽田(有田川右岸 5K300付近) 家屋倒壊状況



日田市東有田(有田川右岸 3K500付近) 日掛橋冠水状況



日田市十二町(花月川右岸3.8k付近) 日田市街部浸水状況

7月3日 山国川水系山国川の出水概要

- ・山国川水系山国川の下唐原水位観測所(大分県中津市)で**観測史上最高水位**を記録。
- ・山国川中流部(国管理区間)・上流部(県管理区間)の**至るところで越水**し、沿川で浸水被害が発生。

【位置図】

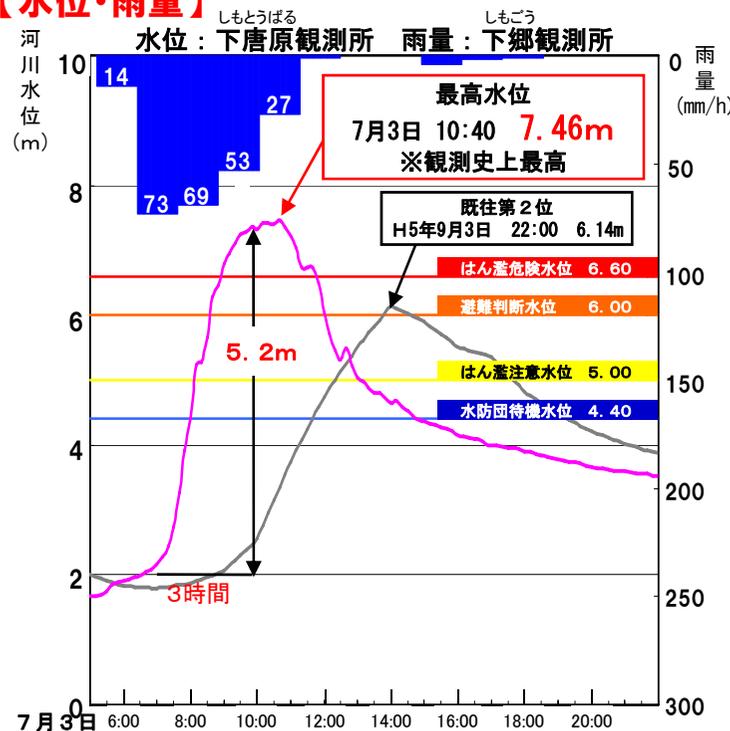


【出水状況等】



中津市本耶馬溪町樋田(山国川 15.8k付近) 洞門橋上流右岸の浸水状況

【水位・雨量】



【浸水戸数】

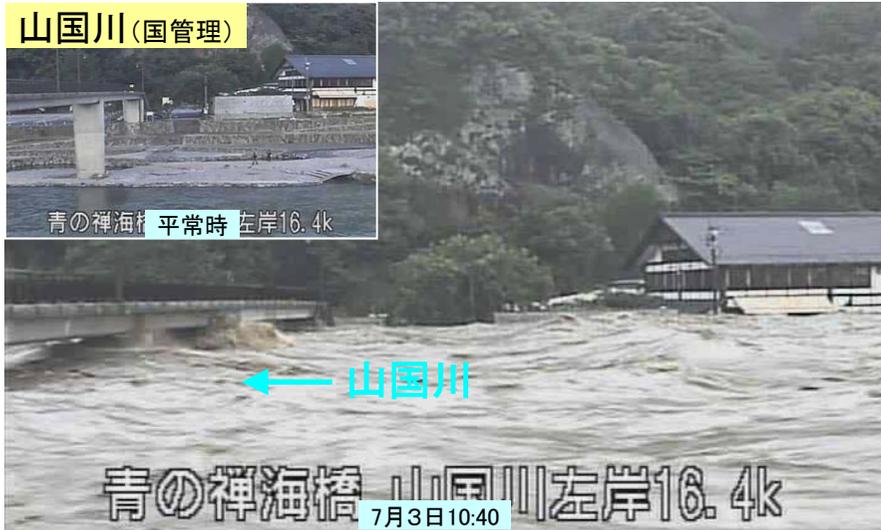
山国川沿川の浸水戸数

平成24年10月11日時点

河川名	市町村名	浸水戸数(戸)					備考
		全壊	半壊	床上	床下	計	
山国川	中津市	—	—	216	120	336	国管理 県管理

【出水状況等】

山国川(国管理)



中津市本耶馬溪町曾木(山国川 16K400付近) 青の禅海橋付近出水状況

山国川(国管理)



中津市本耶馬溪町樋田(山国川 15K600付近) 洞門橋上流の出水状況

山国川(県管理)



中津市耶馬溪町大島(山国川30k600付近) 下郷小学校浸水状況

山国川(県管理)



中津市耶馬溪町大島(山国川30k800付近) 雲与橋の冠水状況

7月14日 矢部川水系矢部川・沖端川の出水概要

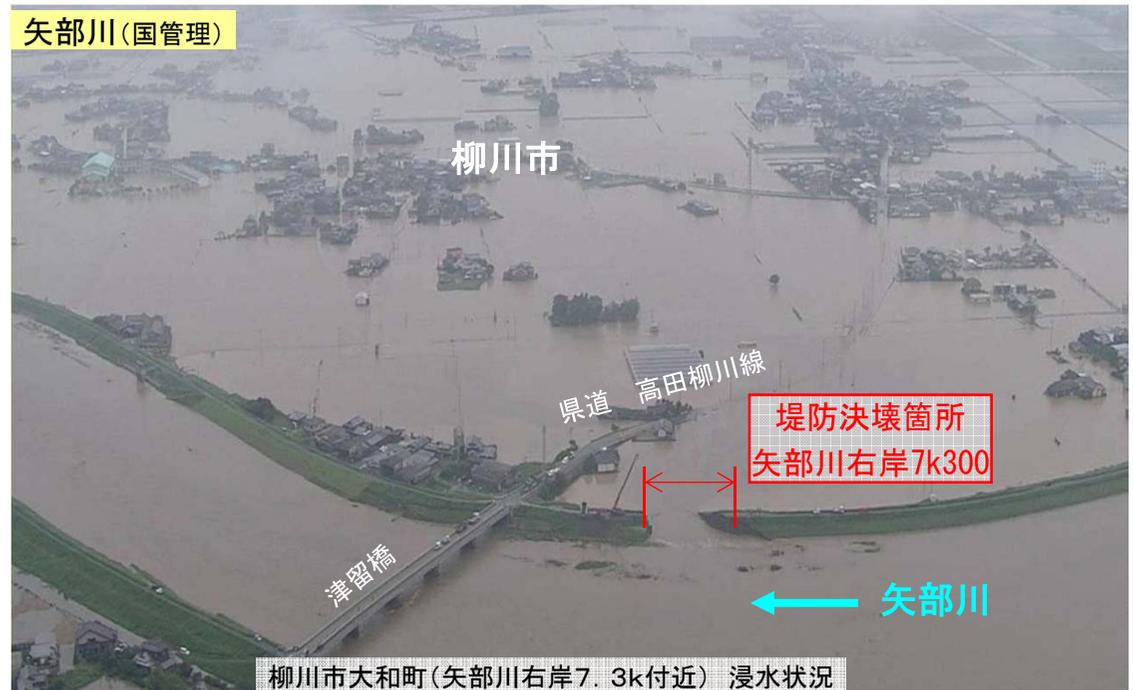
- ・矢部川水系矢部川の船小屋水位観測所(福岡県筑後市)で**観測史上最高水位**を記録。
- ・矢部川(国管理)で1箇所・沖端川(県管理)で2箇所の**堤防が決壊**し、柳川市・みやま市の市街部を中心に浸水被害が発生した。

【位置図】

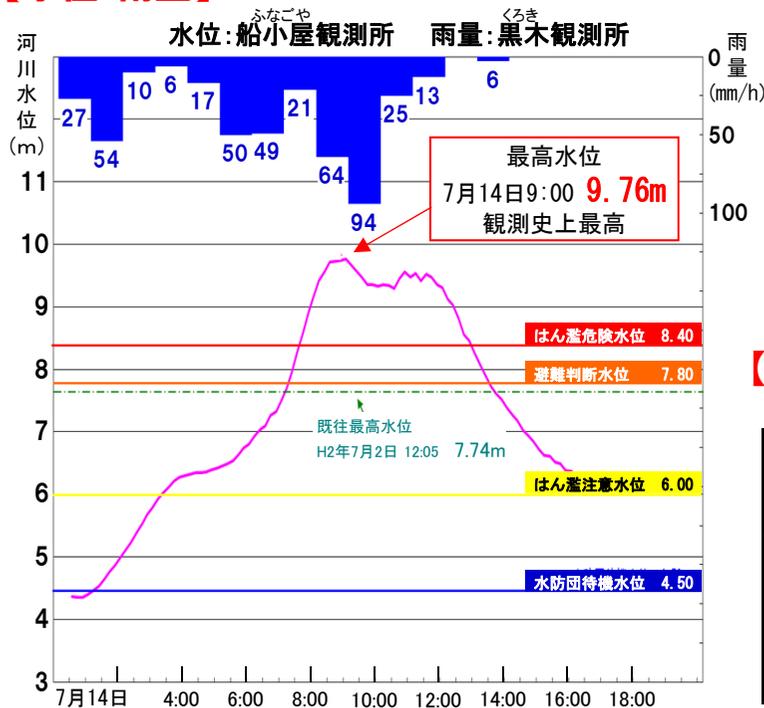


【出水状況等】

矢部川(国管理)



【水位・雨量】



【浸水戸数】

矢部川・沖端川沿川の浸水戸数

平成24年10月9日時点

河川名	市町村名	浸水戸数(戸)			備考
		床上	床下	計	
矢部川 沖端川	柳川市 みやま市 筑後市 八女市	697	1,111	1,808	国管理 県管理

【出水状況等】



柳川市大和町(矢部川右岸7.3k付近) 堤防決壊



柳川市三橋町(沖端川左岸11.5k付近) 堤防決壊



柳川市大和町(矢部川右岸7.3k付近) 堤防決壊箇所からの氾濫流



柳川市三橋町(沖端川左岸11.5k付近) 堤防決壊箇所からの氾濫流

7月12日 国道57号滝室坂(国管理)の被災概要

- ・阿蘇市一の宮町坂梨の国道57号滝室坂で、7月12日の豪雨により、計11箇所において斜面崩壊等の被害が発生。
- ・7月12日～8月20日の40日間にわたり、阿蘇市波野小地野～阿蘇市一の宮町坂梨間の4.6kmが全面通行止め。

【位置図】



■59K050付近(土石等流出)



■最も被災規模が大きかった、60K950付近の斜面崩壊の状況

7月14日 福岡県八女市星野村・黒木町の土砂災害

- ・福岡県八女市星野村・黒木町では14日の豪雨により、各所で土石流や崖崩れ等の**土砂災害が発生**。
- ・星野村鹿里では土砂災害により**1名が死亡**。

【位置図】



【被災状況】



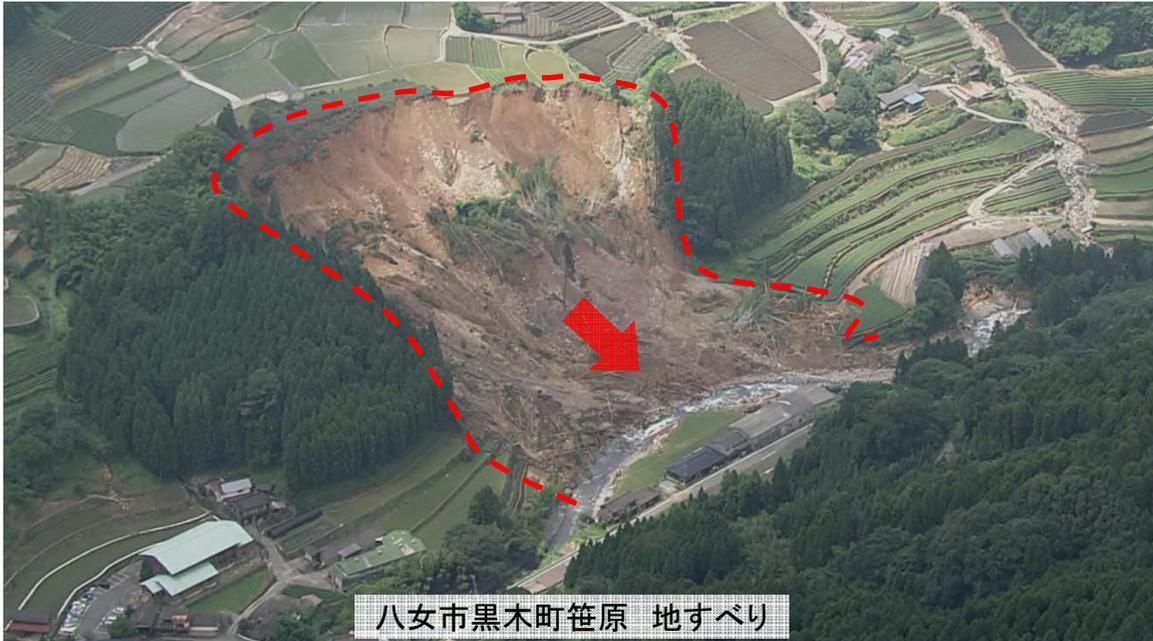
八女市星野村鹿里
人的被害：死者1名
家屋被害：半壊1戸



八女市星野村鹿里 崖崩れ

八女市星野村鹿里 崖崩れ

【被災状況】



八女市黒木町笹原 地すべり



地すべりにより河道の一部閉塞が発生



八女市黒木町柳原 地すべり

7月13日 六角川水系牛津川の出水概要

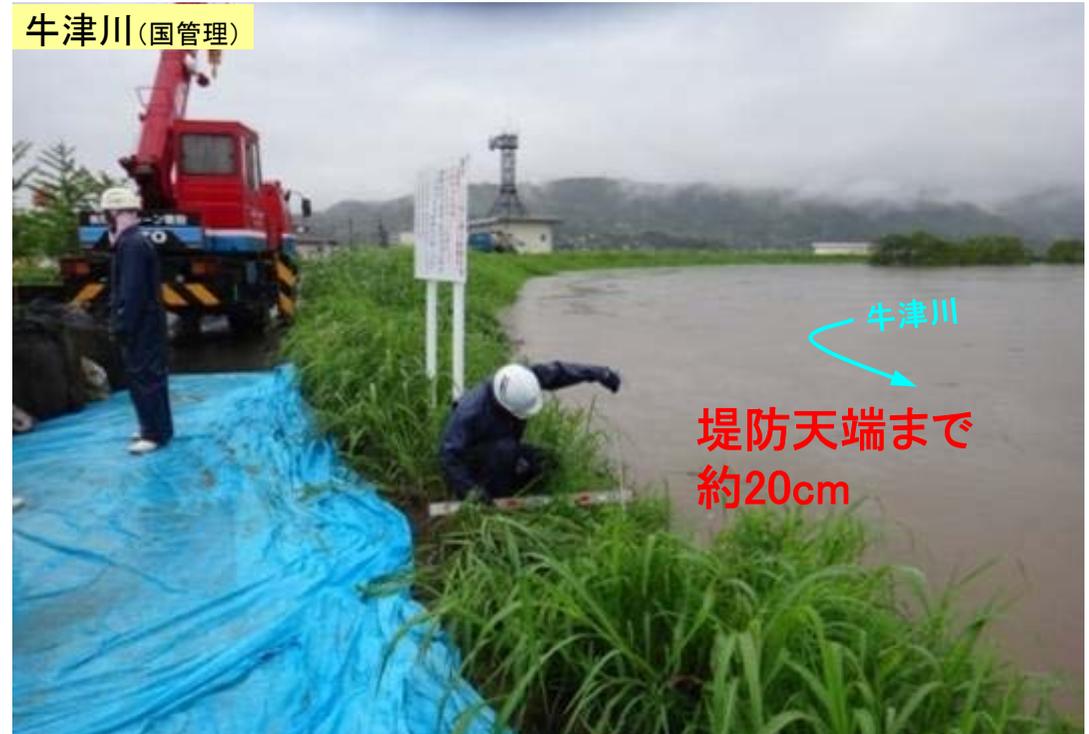
- ・六角川水系牛津川の妙見橋水位観測所(佐賀県多久市)で**観測史上第2位**となる水位を記録。
- ・牛津川沿川(佐賀県小城市・多久市)において内水被害が発生した。

【位置図】



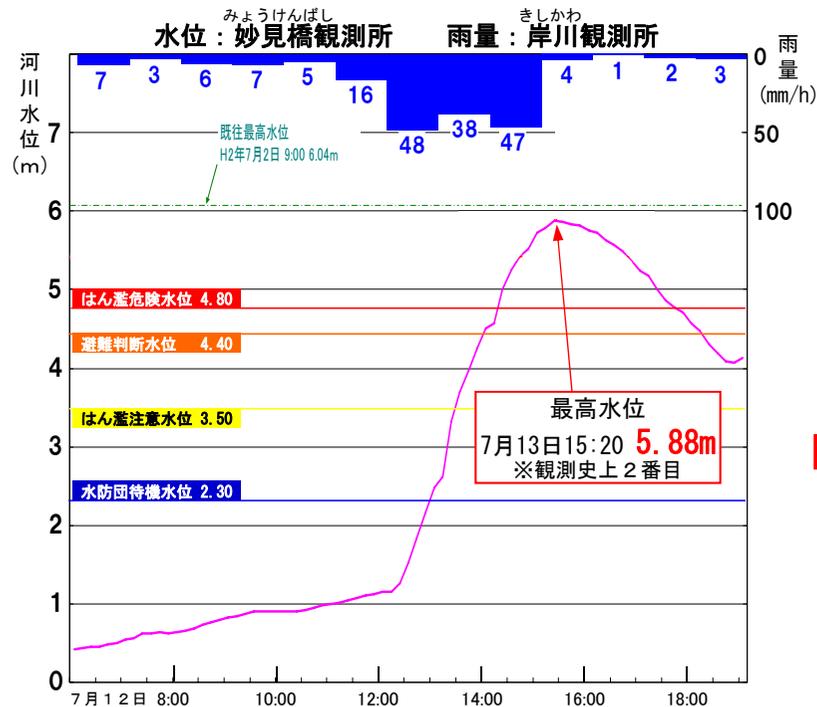
【出水状況等】

牛津川(国管理)



小城市牛津町上砥川(牛津川7.6k付近) 出水状況

【水位・雨量】



【浸水戸数】

牛津川沿川の浸水戸数等

平成24年8月2日時点

水系名	浸水戸数(戸)					備考
	全壊	半壊	床上	床下	計	
合志川	—	—	3	19	22	国管理区間

【出水状況等】

牛津川(国管理)



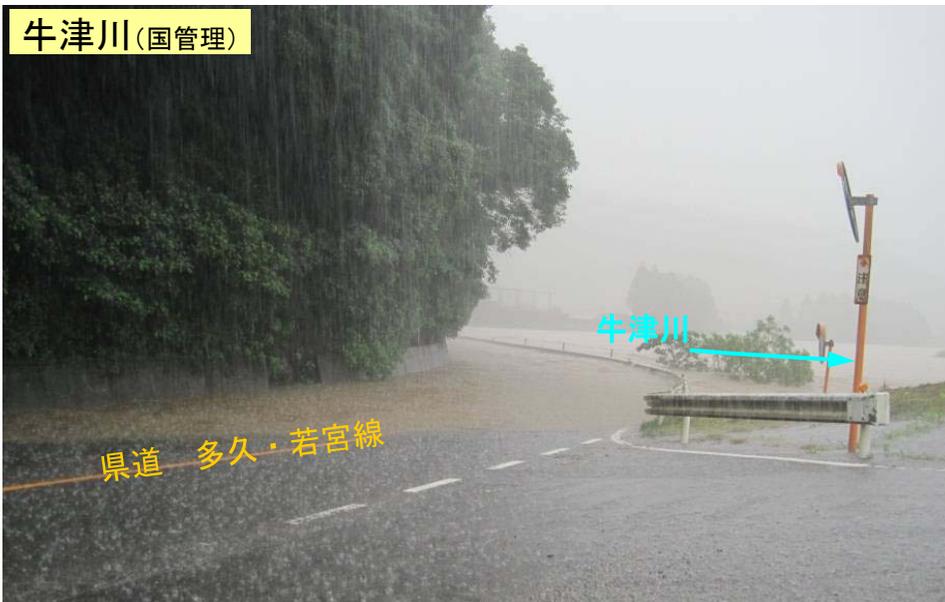
小城市牛津町(牛津川7.4k付近) 出水状況

小城市(牛津川沿川)



小城市牛津町 国道34号線 冠水状況

牛津川(国管理)



多久市南多久町(牛津川 18.4K付近) 県道冠水状況

多久市(牛津川沿川)



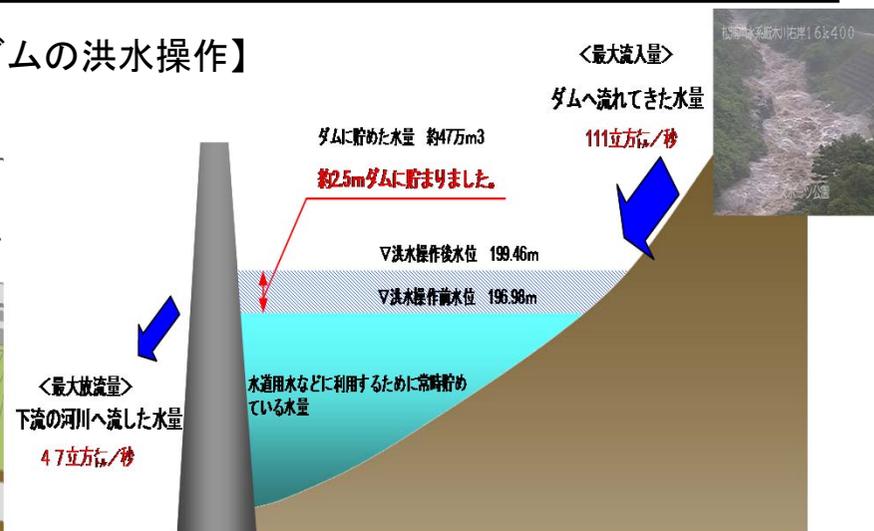
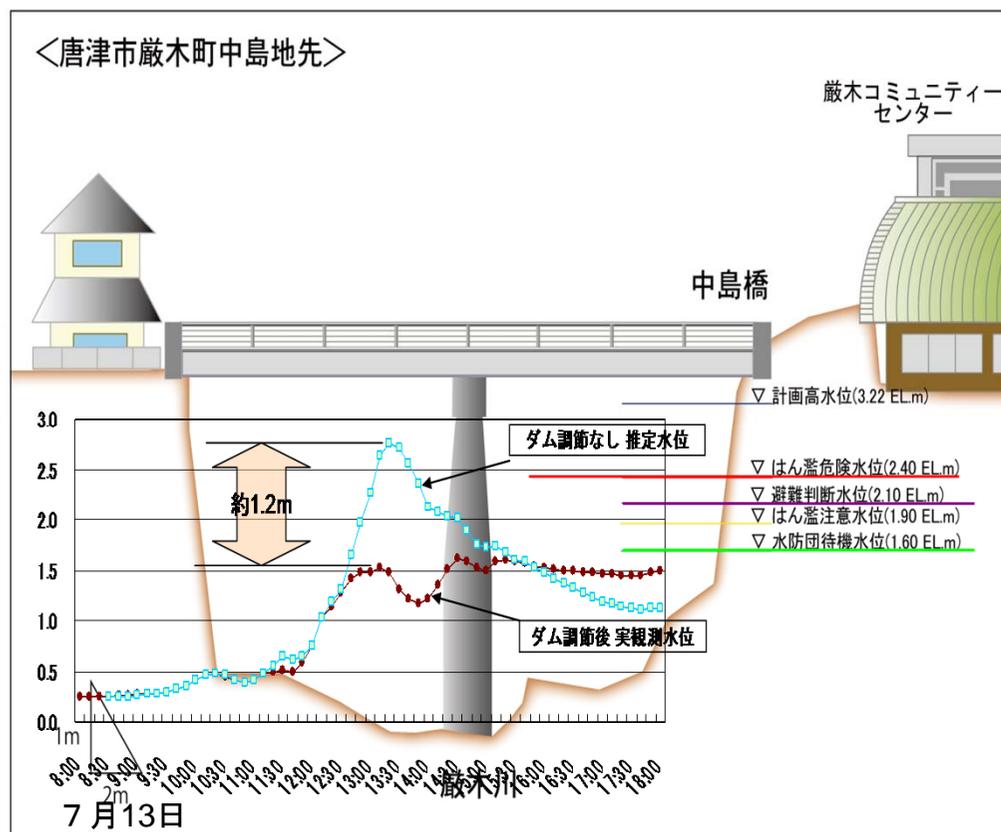
多久市東多久町(牛津川 14.6K付近) 浸水状況

平成24年7月13日～14日洪水（厳木ダム）

●ダム下流河川の増水を緩和させる操作

- ダムへ流れてくる水量の最大が111立方メートル／秒となり、
- 厳木ダムでは、下流河川へ流す水量を最大で47立方メートル／秒としました。
- その操作により、約2.5m分の水量をダムに貯め、
- 下流河川での水位上昇を緩和しました。（最大1.2m：厳木町 中島橋水位観測所）

【厳木ダムの洪水操作】



TEC-FORCE、リエゾン等の活動

- ・各整備局・本省等から、TEC-FORCE・災害対策用機械等が九州に集結。
要請を受けた自治体及び直轄の被災箇所で、被災状況の調査・分析、復旧に向けた技術支援、排水作業等を実施。
- ・県庁・市町村役場にリエゾンを派遣、整備局・自治体相互の情報共有や、自治体への応援派遣に関する調整を実施。

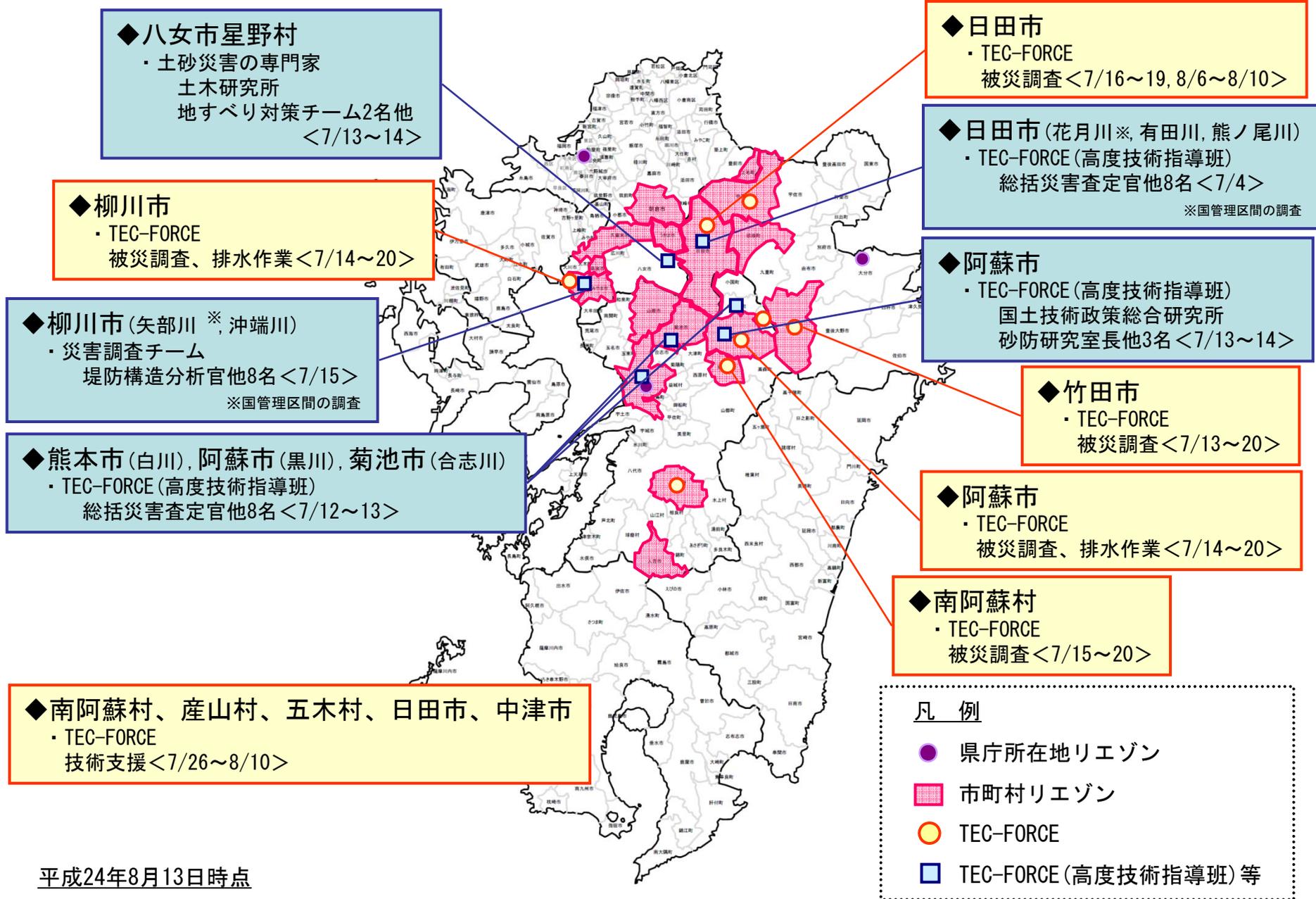
■TEC-FORCE、災害対策用機械の出動状況

	他地整・本省等からの支援									九州	合計
	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	沖縄	本省 国総研 土研	小計		
TEC-FORCE	8人 (30人日)	8人 (20人日)	13人 (75人日)	13人 (74人日)	14人 (84人日)	15人 (102人日)			71人 (393人日)	117人 (341人日)	188人 (734人日)
TEC-FORCE (高度技術)等								25人 (35人日)	25人 (35人日)	9人 (12人日)	34人 (47人日)
排水ポンプ車	3台	4台	5台	2台	5台	2台			21台	35台	56台
照明車	3台	4台	5台	2台	5台	2台			21台	18台	39台
待機支援車					1台				1台	3台	4台
清掃車・散水 車等									0台	10台	10台
対策本部車									0台	1台	1台
防災ヘリ		1機		1機		1機	1機		4機	1機	5機

■県・市町村への九州地整リエゾン派遣状況

3県 延べ102人日
 18市町村 延べ305人日 } 計 延べ407人日派遣

TEC-FORCE、リエゾン等の活動



平成24年8月13日時点

実践的な洪水ハザードマップの作成

平成24年の豪雨により多数の河川が決壊(延べ73万人超に避難指示・勧告)

- ◇ 避難が遅れると甚大な被害につながりかねない堤防決壊等が多発しており、命を守るためには的確な避難行動が極めて重要
 - 矢部川等で堤防決壊
 - 熊本市(白川)、柳川市(矢部川)等で自衛隊による救助活動
 - 熊本市、柳川市等で延べ73万人超に避難指示・勧告

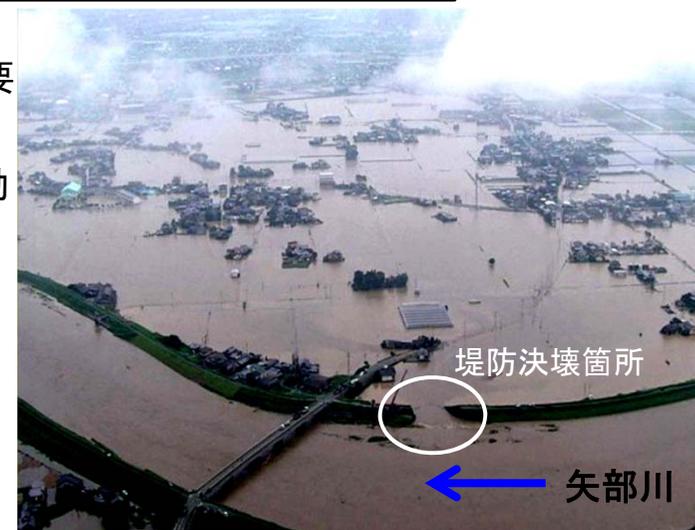
住民が洪水時に的確な避難行動をとれるよう、河川管理者が提供する浸水想定に係る情報の点検

- 1) 屋外への避難が遅れると命の危険がある区域を明示
 - ① 二階家屋が水没するおそれのある区域
 - ② 洪水氾濫によって家屋倒壊のおそれのある区域
 - ③ 河岸侵食等によって家屋倒壊のおそれのある区域
- 2) 避難場所や避難経路について水害時に的確な避難行動を選択できるよう、臨場感のある情報を提供
 - ① 浸水形態(洪水氾濫の拡がり方等)
 - ② 避難の際に避けるべき方向や場所 等

「洪水ハザードマップ作成に関する検討会」
(本年1月～3月、計3回開催)

- ◇ 住民が的確な避難行動を平時から具体的にイメージできるような“実践的なハザードマップ”へグレードアップするため、学識者及び行政関係者から意見聴取

「洪水ハザードマップ作成の手引き」の改定
(平成25年3月)



平成24年7月 矢部川の堤防決壊



ヘリコプターによる住民救出(熊本市北区)

「洪水ハザードマップ作成の手引き」の改定

改定のポイント

住民の適切な避難行動につながるよう、洪水ハザードマップに記載する項目を整理

○原則として必ず記載することが必要な「**共通項目**」(表示・記載方法についても整理)

○地域の状況に応じて記載するかどうかを判断すべき「**地域項目**」

<共通項目>

洪水ハザードマップの地図上に表示する項目

- 浸水想定区域と浸水深
- 洪水時家屋倒壊危険ゾーン
- 避難所等
- 避難時の危険箇所
- 土砂災害警戒区域
- 水位観測所等の位置

洪水ハザードマップ内に記載する項目

- 浸水ランク等に即した避難行動の心得
- 洪水予報等、避難情報の伝達方法
(プッシュ型の情報)
- 洪水時に得られる情報と、その受信や取得の方法
(プル型の情報)
- 避難所等の一覧
- 津波災害警戒区域に関する事項
- 図面に示された以上の氾濫被害が生じ得ることや避難しなかった場合に起こる事象

<地域項目>

避難活用情報

- 河川の氾濫特性
- 避難時の心得
- 避難勧告等に関する事項
- 地下街等に関する情報

災害学習情報

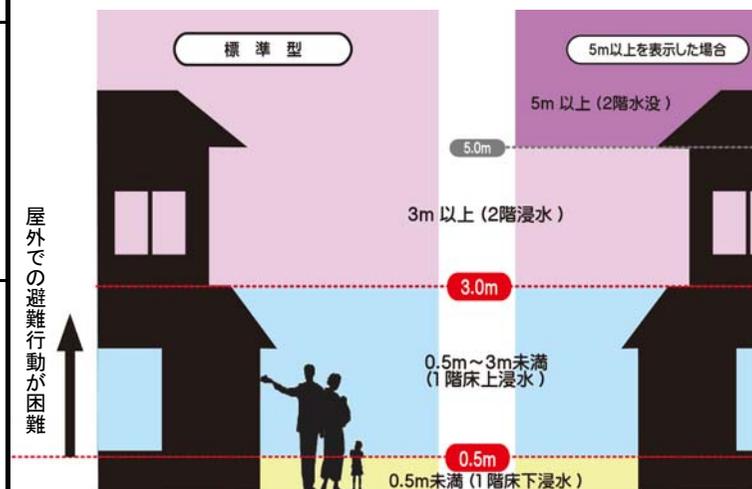
- 水害の発生メカニズム、地形と氾濫形態
- 既往洪水に関する情報
- 洪水氾濫時に起こること及び避難の際に注意すべきこと
- 水害に備えた心構え
- 気象情報に関する事項

改定のポイント

避難行動の大原則 …… 避難勧告等が発令されたら速やかに避難

○浸水ランクを簡便化し、浸水ランク等に応じた避難行動・心構えをわかりやすく整理

浸水危険情報	出水時の心構え
洪水時家屋倒壊危険ゾーン	○家屋の倒壊のおそれがあり、避難が遅れると命の危険が非常に高いため、住民は避難情報のみならず、出水時の水位情報にも注意し、事前に必ず避難所等の安全な場所に避難
浸水深3.0m以上の区域	○2階床面が浸水する2階建て住宅では、避難が遅れると危険な状況に陥るため、住民は避難情報のみならず、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難 ○高い建物の住民でも、浸水深が深く、水が退くのに時間を要することが想定されるため、事前に避難所等の安全な場所に避難
浸水深0.5m～3.0mの区域	○平屋住宅または集合住宅1階の住民は、1階床上浸水になり、避難が遅れると危険な状況に陥るため、避難情報のみならず、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難 ●2階以上に居室を有する住民は、浸水が始まってからの避難は、水深0.5mでも非常に危険なため、避難が遅れた場合は、無理をせず自宅2階等に待避 ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点について認識しておくことが必要
浸水深0.5m未満の区域	●避難が遅れた場合は自宅上層階で待避 ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点について認識しておくことが必要



法改正の目的

- ①大規模な土砂災害が急迫している状況において、市町村が適切に住民の避難指示の判断等を行えるよう国又は都道府県が被害の想定される区域・時期の情報を提供
- ②高度な技術を要する土砂災害については国、その他の土砂災害については都道府県の役割や関与を法律上明確化

概要

大規模な土砂災害が急迫
〔天然ダム、火山噴火に伴う土石流、地滑り〕

今回の追加事項

高度な技術を要する土砂災害については国、その他の土砂災害については都道府県が緊急調査を実施

緊急調査に基づき被害の想定される区域・時期の情報（土砂災害緊急情報）を市町村へ通知・一般へ周知

市町村長が住民への避難を指示（災害対策基本法第60条）等

土砂災害から国民の生命・身体を保護

大規模な土砂災害が急迫

河道閉塞による 湛水・土石流

- ・河道閉塞(天然ダム)の高さがおおむね20m以上ある場合
- ・おおむね10戸以上の人家に被害が想定される場合

火山噴火による土石流

- ・河川の勾配が10度以上である区域のおおむね5割以上に1cm以上の降灰等が堆積した場合
- ・おおむね10戸以上の人家に被害が想定される場合

地すべり

- ・地すべりにより、地割れや建築物等に亀裂が発生又は広がりつつある場合
- ・おおむね10戸以上の人家に被害が想定される場合

緊急調査

国土交通省

湛水又は土石流による被害が及ぶおそれがある土地の区域・時期の想定

緊急調査

都道府県

地すべりによる被害が及ぶおそれがある土地の区域・時期の想定

国土交通省又は都道府県は、緊急調査に基づき被害の想定される区域・時期の情報(土砂災害緊急情報)を関係市町村長へ通知するとともに、一般に周知する

市町村長が住民への避難を指示(災害対策基本法第60条)等

土砂災害から国民の生命・身体を保護

東日本大震災の教訓～命を守るための防災～

2011年3月11日 東日本大震災

死者:15,683人
行方不明者:4,830人

} 計:20,513人
(警察庁:H23.8.8)



岩手県釜石市



宮城県名取市

東日本大震災の教訓～命を守るための防災～

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い命が失われました。このような大災害の中、大津波が襲った釜石市では小中学生のほとんどが無事に避難しています。釜石市では、日頃から防災教育を実施するなど、災害に対する備えを行ってきたことが、多くの命を救ったといわれております。

釜石市の事例

釜石市の小学生1,927人、中学生999人のうち、津波襲来時に学校の管理下にあった児童・生徒については、全員の無事が確認された。

※但し、津波襲来時において学校管理下でなかった児童・生徒のうち、5名が津波の犠牲となった。

釜石で伝えた【避難の3原則】

【想定にとられるな】

「ハザードマップを信じるな！」

浸水想定区域はあくまで“想定外力”に基づくものであって、それ以上の災害が起こる可能性があると思え
【浸水想定区域外であったにもかかわらず、避難対策をしっかりとっていた】

【最善を尽くせ】

「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとれ
【予め決めておいた避難所よりも、さらに高台へ避難した】

【率先避難者たれ】

いざというときには、まず自分が避難することその姿を見て、他の人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能となる
【避難する中学生を見て、小学生は校外へ避難した】



(津波襲来直前に鶴住居地区住民が撮影)

被害軽減のために ～自助・共助・公助～

自分の身は自分で守る **自助**

家具の転倒防止、初期消火、非常持出袋

地域の防災力UP!

自分の地域は自分たちで守ろう **共助**

隣近所での助け合い、情報の収集・伝達

3つの連携が円滑なほど、災害の被害は軽減できます。

消防、警察、自衛隊、ボランティア **公助**

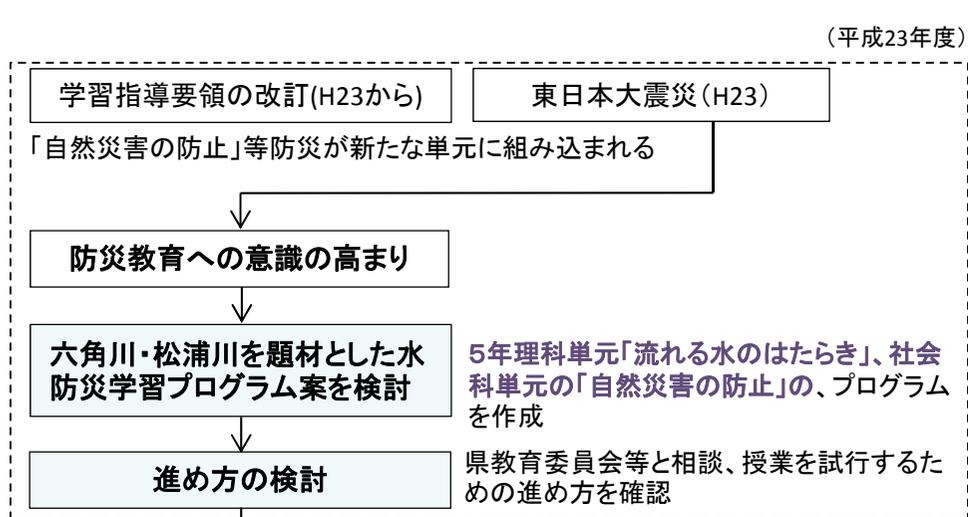
大規模災害では、警察・消防の救助には時間がかかる場合も

日頃から、防災意識の向上と備えも必要!

教育機関が自ら行う水防災教育への支援

【目的】 川を対象とした幅広い防災知識の向上を目的に、授業で風水害対策を採用してもらう取組を実施。このことにより児童を通じて保護者及び地域住民への防災意識向上の広がりも期待できる。

【ポイント】 ①総合学習ではなく、理科・社会科の正式な授業で実施 → 学校関係者との話し合い支援を経て実現
 ②ゲストティーチャーではなく、担任の教諭が授業を実施 → 教育現場のフォーマットに沿った学習プログラム(指導計画書)を作成
 ③地元を流れる身近な六角川・松浦川流域を題材にする → 写真・図面等)の資料を提供



プログラムの構成位置づけ

- ・内容のポイント
- ・工夫点
- ・ねらい
- ・必要な資料(別冊で整理)
- ・教科書該当ページ
- ・時間配分
- ・黒板の板書計画 等々

風水害時に自分たちができることは何だろう。

○ひんやんのために知りたいこと

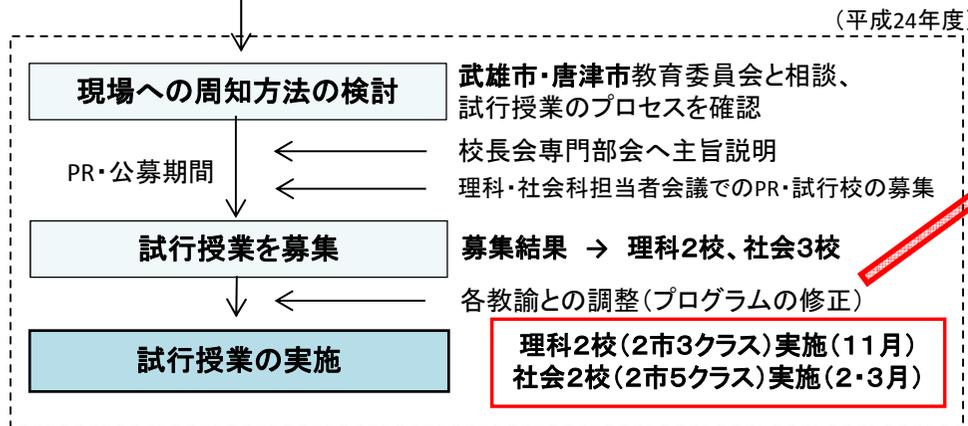
- ・近くのひやん所
- ・防災関係機関の連らく先
- ・安全な道

○風水害時にできること

- ・市にひ害の状きようを聞く
- ・困っている老人がいたら消防署に連らく
- ・ひやん所にひやん
- ・水位が高い時は歩かかない
- ・テレビやラジオで情報を入手
- ・一人で行動しない
- ・非常食など持ち物を用意

風水害のき陰を回ひするのために日ごろから準備しておくことが大切。

理科授業の様子



(平成25年度以降)

試行の評価を行い、プログラムを修正追加校を募集
修正したプログラム案による授業の実施

試行授業を評価

地域との連携

生徒、保護者、地域一帯となって避難訓練などを実施することで地域防災力向上に繋げていく

防災まちづくりの支援状況（H25.4現在）

唐津市和多田区(4)〈実施中〉

唐津市山本区(1)〈H18年度〉

伊万里市南波多町

重橋・谷口区(2)〈H23年度〉

伊万里市水留区(1)〈H22年度〉

[H23年度]

伊万里市4町(58)〈H24年度〉

(黒川・南波多・二里・東山代)

伊万里市大川町宿区(1)〈H18年度〉

[H22年度]

武雄市武雄町西浦区(1)〈H21年度〉

武雄市朝日町(7)〈H22年度〉

(2) [H24年度]

武雄市武雄町永島区(1)〈H24年度〉

武雄市高橋区(1)〈H20年度〉

[H22年度]

武雄市北方町(4)〈H17年度〉

(1) [H24年度]

武雄市橘町片白区(1)〈H17年度〉

[H22年度]

唐津市原・柏崎区(2)〈H20年度〉

唐津市上久里区(1)〈H21年度〉

多久市北多久町砂原区(1)〈H24年度〉

多久市東多久町区(6)〈H22年度〉

多久市納所(1)〈H17年度〉

鳥栖市

神崎市(1)

佐賀市鍋島町(22)

佐賀市赤松(1)

佐賀市嘉瀬町(14)

小城市牛津町(1)〈H24年度〉

小城市牛津町(2)〈H21年度〉

小城市牛津町(4)〈H23年度〉

()書き：地区数

< >書き：マイ防災マップ支援実施年度

[]書き：まるまち支援実施年度

	マイ防災マップ		まるごとまちごとハザードマップ	
	●作成済	●作成中	○作成済	○作成中
六角川	30	0	5	0
松浦川	66	4	2	0
嘉瀬川	38	—	—	—
計	134	4	7	0

※平成21年4月より、嘉瀬川は筑後川河川事務所の管轄となったため、武雄河川事務所にて取り組んだ地区のみ計上しています。

伊万里市「わがまち・わが家の防災マップ」づくり

●伊万里市全行政区（182区）で「わがまち・わが家の防災マップ」の取り組み

東日本大震災



災害から命を守るための一つ的手段として、「地域の危険箇所や避難経路等を表示したいざという時に役立つ地区ごとの防災マップ」づくりの必要性

市が各行政区に補助、H24年度から3カ年をかけて全行政区

（182区）でマップ作成予定

H24年度は4町58区で実施 →全国的にも珍しく、先進的な取り組み
武雄河川事務所では、マップ作成の支援

「わがまち・わが家の防災マップ」づくり経緯

平成24年6月5日開催

・マップ作成に係る説明会

平成24年8月7～9日開催

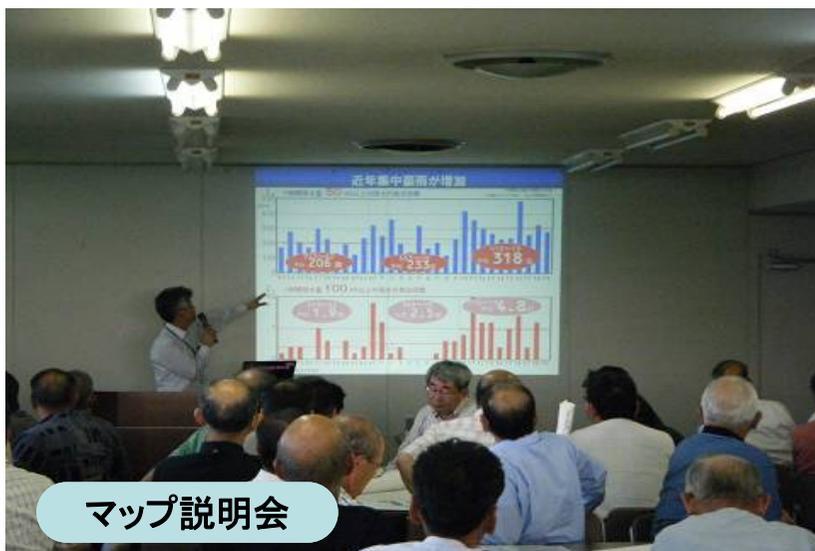
・マップ点検会

平成25年1月15日開催

・マップ活用法に係る説明会

全体での集まりは3回ですが、地区毎でマップ作成、まち歩きをされています。

伊万里市「わがまち・わが家の防災マップ」づくり



防災まちづくりの支援(マイ防災マップ作成)

地域のマイ防災・安心安全マップ



防災・安心安全に関するアイコン

- | | |
|--|--|
|  避難場所 |  排水ポンプ場 |
|  公民館分館 |  排水樋門・樋管 |
|  災害情報拠点 |  防火水槽 |
|  水防倉庫 |  消防ポンプ格納庫 |
|  公衆電話 |  消火栓 |
|  街灯 |  バス停 |
|  通学路 |  病院 |
|  信号 |  危ない交差点等 |



防災まちづくりの支援(防災サイン設置)

松浦川流域: 伊万里市水留地区(平成24年3月15日)
 ~H18.9出水の実績浸水深を表示~



地元の小学生の皆さんにも、避難について学んでいただきました

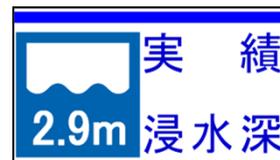
松浦川流域: 伊万里市宿地区(平成23年3月22日)
 ~H2.7出水の実績浸水深を表示~



地元の小学生の皆さんを対象に、防災教室とセットでサインの設置を実施しました

防災サインとは?

洪水時における浸水・避難情報を表示します



洪水を示すサインは、実際の浸水深の道路面からの高さに合わせて設置します

避難所への方向を示しています



「避難所」を示すマーク(緑)

「洪水」を示すマーク(青)



「洪水ハザードマップ」に示されている洪水時の地区の避難場所名を示します

「実績浸水深」とは、この地域における平成18年9月の洪水で記録した実績の浸水深を表したものです。

大分県での取り組み <自主防災組織＋防災士>

地域を守るリーダー 県が防災士を養成

2012年6月26日(大分合同新聞)

県は本年度、巨大地震や津波などの災害時に地域を守る自主防災組織でリーダーとして活躍する防災士3千人の養成に取り組む。地域ごとに訓練や学習の場を自主的に計画できる人材を確保し、災害時に被害を減らす「減災」につなげる。自治会単位の自主防災組織で活動する人を対象に、県内の全市町村で受講を受け付けている。

県防災危機管理課によると、県内の自主防災組織は、訓練や避難場所の確認といった基本的な活動の活性化が課題。このため約3500の自主防災組織のそれぞれに、防災士を少なくとも1人配置する計画。

(以下、省略)



上人西町と上平田町の両自治会が防災士の協力で開いた、総合防災訓練＝2011年8月6日、別府市上人小学校グラウンド(提供写真)